

令和 4 年 9 月 1 日

決 算 説 明

9 月 定 例 会 議

常 総 市



認定第1号 令和3年度常総市一般会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、当初予算額2百27億6千万円のところ、補正及び前年度からの繰越額を加えました予算現額は、3百9億6百99万2千2百円です。これは、前年度に比較いたしまして20億7千5百65万4千2百90円で6.3%の減となっております。この予算に対する歳入につきましては、2百80億4百72万7百88円の収入済額で90.6%の収入率であり、前年度に比較し、39億4百61万5千9百1円の減となっております。また、調定額2百83億8千8百65万1千5百73円に対しまして98.6%の収入率で、3億6千6百59万9千151円の収入未済額を生じましたが、その主なものは、市税、諸収入等であります。

なお、市税につきましては、1千7百30万7千7百34円の不納欠損処分を行った結果、収入未済額は、2億3千9百44万9百45円となり、その他の収入未済額とともに、滞納繰越分として翌年度へ繰越いたしました。

次に、歳出につきましては、支出済額2百66億7千9百1万5千168円で、執行率は86.3%となり、10億6千7百51万8千32円の不用額を生じました。不用額の主なものは、民生費の4億1千4百11万3千123円、農林水産業費の1億6千5百2万7百16円などです。

以上申し上げました歳入歳出決算の結果、差引残額は13億2千5百70万5千6百20円となりましたが、このうち3億2千31万4千8百円は繰越明許費の財源であり、これを差し引いた10億5百39万8千20円を、令和4年度へ繰越いたしました。

以上が令和3年度の一般会計決算の概要であります。

詳細につきましては、特別委員会におきまして、ご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

認定第2号 令和3年度常総市国民健康保険特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

まず、歳入につきましては、予算現額66億8千2百94万5千円に対し、調定額68億5千4百33万4千5百81円、収入済額65億4千2百47万8千50円であります。予算現額に対する収入率は97.9%、調定額に対しては95.5%の収入率です。

主なものは、国民健康保険税13億7千7百15万8千54円、県支出金46億2百34万5千9百81円、繰入金4億9百51万4千9百40円であります。なお、国民健康保険税につきましては、1千8百79万8千5百13円の不納欠損処分を行いましたので、収入未済額は2億9千2百52万9千9百28円となり、滞納繰越分として翌年度へ繰越いたしました。

次に、歳出につきましては、64億5千112万7千9百円の支出済額で、このうち、45億4千3百20万6千4百17円が保険給付費、16億7千88万8千9百45円が国民健康保険事業費納付金になります。予算に対する執行率は96.5%で、2億3千181万7千100円の不用額を生じました。その主なものは、保険給付費の1億7千8百78万1千5百83円となります。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、9千135万150円となり、これを令和4年度へ繰越いたしました。

認定第3号 令和3年度常総市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額14億1千5百63万7千円に対し、調定額14億6百9万9千8百86円、収入済額14億46万1千3百86円あります。予算現額に対する収入率は98.9%です。

主なものは、後期高齢者医療保険料5億4千5百69万5千8百円、繰入金8億3百64万6千6百30円あります。

歳出につきましては、13億9千9百21万1千7百15円の支出済額で、後期高齢者医療広域連合納付金13億4千3百28万1千4百30円が主な支出であります。予算に対する執行率は98.8%で、1千6百42万5千2百85円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、124万9千6百71円となり、これを令和4年度へ繰越いたしました。

認定第4号 令和3年度常総市介護保険特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額56億192万6千円に対し、調定額55億9千6百66万1千7百83円、収入済額55億6千88万5千4百83円であります。予算現額に対する収入率は99.3%です。主なものは、保険料12億1千5百44万8千2百円、国庫支出金11億5千3百37万4百51円、支払基金交付金13億9千53万2千8百6円であります。

歳出につきましては、54億5千173万3千9百31円の支出済額で、保険給付費50億4千8百4万4千5百13円が主な支出であります。予算に対する執行率は97.3%で、1億5千19万2千69円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、1億9百15万1千5百52円となり、これを令和4年度へ繰越しいたしました。

認定第5号 令和3年度常総市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算についてご説明申し上げます。

歳入につきましては、予算現額2千27万7千円に対し、調定額、収入済額ともに2千166万6百59円で予算現額に対する収入率は106.8%で、サービス収入が主なものであります。

歳出につきましては、1千8百53万4千2百39円の支出済額で、予算に対する執行率は91.4%となり、174万2千7百61円の不用額を生じました。

以上によりまして、歳入歳出差引残額は、3百12万6千4百20円となり、これを令和4年度へ繰越しいたしました。

以上が令和3年度特別会計決算の概要であります。

詳細につきましては、特別委員会におきまして、ご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

令和4年9月1日

水道事業会計決算説明

9月定例会議

常総市



認定第6号 令和3年度常総市水道事業会計決算についてご説明申し上げます。

はじめに、決算報告書についてご説明申し上げます。

収益的収入につきましては、予算額の15億9千3百39万5千円に対し、決算額は16億1千4百89万7千4百74円で、2千150万2千4百74円の増でございます。収益的支出につきましては、予算額の15億3千5百98万2千円に対し、決算額は14億9千6百26万5百89円で、3千9百72万1千4百11円の不用額が生じました。

次に、資本的収入につきましては、予算額の3億3千112万8千円に対し、決算額は2億3千6百95万5千6百10円で、9千4百17万2千3百90円の減でございます。資本的支出につきましては、予算額の7億1千60万3千円に対し、決算額は6億1千5百42万9百89円、翌年度繰越が2千9百84万3千円で、6千5百33万9千11円の不用額が生じました。収入が支出に不足する額3億7千8百46万5千3百79円は、過年度損益勘定留保資金並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補填いたしました。

次に、損益計算書についてご説明申し上げます。営業収益は12億9千9百67万1千9百7円で、営業費用は13億2千4百55万6千9百87円でございます。営業外収益は1億8千5百18万4千6百7円で、営業外費用は6千4百93万9千3百12円で、収益から費用を差引いた当年度純利益は、9千5百36万2百15円となり、前年度繰越利益剰余金の1億110万8千2百13円を加算しますと、当年度未処分利益剰余金は、1億9千6百46万8千4百28円となります。

次に、剰余金計算書についてご説明申し上げます。資本金の前年度末残高及び当年度末残高は42億4千25万5千15円で、前年と同額でございます。

また、剰余金のうち資本剰余金の当年度末残高は9千3百98万6千9百10円で、前年と同額でございます。

なお、利益剰余金のうち、建設改良積立金の当年度末残高は9千5百35万6千68円で、前年度末残高と同額でございます。未処分利益剰余金は、損益計算書のとおり、令和3年度末残高が1億9千6百46万8千4百28円となっております。

次に、剰余金処理計算書についてご説明申し上げます。令和3年度未処分利益剰余金が1億9千6百46万8千4百28円で、そのまま翌年度への繰越となります。

最後に、貸借対照表についてご説明申し上げます。資産の部では、固定資産が



113億4千3百20万5千188円、流動資産が12億8千7百61万9千7百43円で、資産の合計は126億3千82万4千9百31円となります。負債の部では、固定負債が33億5千8百18万5千56円、流動負債が5億8千121万3千43円、繰延収益の合計は40億6千5百36万4百11円で、負債合計は80億4百75万8千5百10円でございます。資本の部では、資本金が42億4千25万5千15円、剰余金が3億8千5百81万1千4百6円で、負債資本の合計は126億3千82万4千9百31円となり、貸借は一致しております。

以上が令和3年度常総市水道事業会計決算の概要でございます。

詳細につきましては、特別委員会におきまして、ご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

令和 4 年 9 月 1 日

下水道事業会計決算説明

9 月 定 例 会 議

常 総 市



認定第7号 令和3年度常総市下水道事業会計決算についてご説明申し上げます。

はじめに、決算報告書についてご説明申し上げます。

収益的収入につきましては、第1款 公共下水道事業収益では、予算額の9億9百85万4千円に対し、決算額は10億4千9百11万8千9百97円で、1億3千9百26万4千9百97円の増、第2款 大生郷特定公共下水道事業収益では、予算額の1億9千7百63万1千円に対し、決算額は2億2百59万3千6百87円で、4百96万2千6百87円の増、第3款 農業集落排水事業収益では、予算額の2億6千5百12万6千円に対し、決算額は2億6千9百25万6千6百99円で、4百13万6百99円の増でございます。

収益的支出につきましては、第1款 公共下水道事業費では、予算額の9億9百85万4千円に対し、決算額は8億9千9百16万6千196円で、1千68万7千8百4円の不用額、第2款 大生郷特定公共下水道事業費では、予算額の1億9千7百63万1千円に対し、決算額は1億9千5百86万8千3百80円で、176万2千6百20円の不用額、第3款 農業集落排水事業費では、予算額の2億6千5百12万6千円に対し、決算額は2億6千97万2千6百70円で、4百15万3千3百30円の不用額が生じました。

次に、資本的収入につきましては、第1款 公共下水道事業資本的収入では、予算額の22億7百97万6千3百60円に対し、決算額は13億8千4百80万1千8百円で、8億2千3百17万4千5百60円の減、第3款 農業集落排水事業資本的収入では、予算額の1億5百68万8千円に対し、決算額は1億3百73万4千円で、195万4千円の減でございます。資本的支出につきましては、第1款 公共下水道事業資本的支出では、予算額の24億7千8百36万4千円に対し、決算額は16億7百13万6千2百81円、翌年度繰越が7億4千7百55万9千円で、1億2千3百66万8千7百19円の不用額、第2款 大生郷特定公共下水道事業資本的支出では、予算額の2千8百2万3千円に対し、決算額は2千8百万2千5百48円で、2万4百52円の不用額、第3款 農業集落排水事業資本的支出では、予算額の1億5千3百46万9千円に対し、決算額は1億5千2百80万194円で、66万8千8百6円の不用額が生じました。資本的収入額が資本的支出額に不足する額2億9千9百40万3千2百23円は、過年度損益勘定留保資金7千6百98万6千5百7円及び当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額7千183万9千6百73円、及び引継金4百82万4千4百44円並びに当年度損益勘定留保資金1億4千5百75万2千5百99円

で補填いたしました。

次に、損益計算書についてご説明申し上げます。営業収益は3億4千2百1万5百10円で、営業費用は11億8千8百55万2千176円でございます。営業外収益は10億86万5千8百58円、営業外費用は1億3千3百14万7千6百45円、特別利益は3百53万3千円で、収益から費用を差引いた当年度純利益は、2千4百70万9千5百47円となり、前年度繰越利益剰余金5千93万6千3百22円を加えた当年度未処分利益剰余金は7千5百64万5千8百69円となります。

次に、剰余金計算書についてご説明申し上げます。資本金の前年度末残高は10億6千5百55万9千178円、当年度変動額の2億2千9百10万8千円を加えまして、当年度末残高は12億9千4百66万7千178円でございます。

また、剰余金のうち資本剰余金の当年度末残高は7億4千29万2千8百48円で、前年度末残高と同額でございます。

次に、剰余金処分計算書についてご説明申し上げます。令和3年度未処分利益剰余金の7千5百64万5千8百69円がそのまま翌年度への繰越となります。

最後に、貸借対照表についてご説明申し上げます。資産の部では、固定資産が2百82億2千5百77万1千2百3円、流動資産が4億8千2百85万2千3百95円で、資産の合計は2百87億8百62万3千5百98円となります。負債の部では、固定負債が98億2千3百87万7千6百97円、流動負債が7億8千3百60万5千4百98円、繰延収益の合計は159億9千53万4千5百8円で、負債合計は2百65億9千8百1万7千7百3円でございます。資本の部では、資本金が12億9千4百66万7千178円、剰余金が8億1千5百93万8千7百17円で、負債資本の合計は2百87億8百62万3千5百98円となり、貸借は一致しております。

以上が令和3年度常総市下水道事業会計決算の概要でございます。

詳細につきましては、特別委員会におきまして、ご説明申し上げますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。